

2. 一般廃棄物処理施設(コミュニティプラント・し尿処理施設・ごみ処理施設等)の設計

概要

一般廃棄物のし尿の処理施設としては、市町村が一般廃棄物処理計画に基づき、地域し尿処理施設として設置、管理する、し尿と生活雑排水を合わせて処理するための小規模な汚水処理施設であるコミュニティプラントとし尿および浄化槽汚泥等を処理するし尿処理施設があります。

また、ごみ処理施設としては、ごみ焼却施設、ごみ燃料化施設、ごみメタン回収施設、生ごみバイオマス化施設等があります。

業務実施のメリットや効果

- ① コミュニティプラント・し尿処理施設・ごみ処理施設等の適正な設計を行い、適正な施設の建設により、適正な循環型社会の構築を行うことができます。
- ② 生活環境の保全と公衆衛生の向上を図ることができます。

OECでは、地域の特性に適した施設規模、資材、工法等によるコミュニティプラントの計画・設計、施工監理、し尿処理施設の設計、改築更新計画・設計、生ごみバイオガス化施設等の設計、施工監理を行います。

【事例紹介】

生ごみバイオガス発電センター(新潟県長岡市)

自治体が運営する施設では全国最大規模の生ごみバイオガス化施設です。PFI事業で、OECはSPC(特別目的会社)の構成員として参画しています。

- ・メタンガス発電量:年間410万キロワット時
(約1,000戸相当)
- ・環境効果 :CO2年間削減量 2,000 t
- ・施設規模 :65 t/日(発酵対象55 t/日)
- ・処理方式 :湿式メタン発酵設備+バイオガス
発電設備(560 kW)
- ・供用開始 :平成 25年 7月

SPC(特別目的会社)については、[\(株\)長岡バイオキューブ](#)のホームページをご参照ください。

